

記入日（西暦）2025 年 12 月 30 日

一般社団法人日本医療薬学会 学術委員会委員長 殿

医療薬学学術小委員会 研究活動報告書 （継続）

1. 小委員会名、研究テーマ

小委員会名	2025 年度医療薬学学術第 4 小委員会
研究テーマ	ヘルスリテラシー向上のための教育の現状と今後の展望

2. 小委員会の委員長、構成委員

委員長	フリガナ	タナカ ミズキ
	氏 名	田中みずき
	所属施設の名称 (正式名称)	株式会社 ファーマスティ みどり薬局

構成委員	氏 名	所 属	次年度
	三宅更紗	みどり薬局	継続
	木内翔太	みどり薬局	継続
	成井浩二	東京薬科大学 准教授	継続
	坂口眞弓	みどり薬局	継続
	柴田淑子	りぼん薬局	継続
	柳直樹	ヒロ薬局	継続
	押切康子	みよの台薬局品川二葉店	継続

注）「次年度」には、継続、新規（次年度から追加）、退任（今年度を以て退任）のいずれかを記入すること。

3. 研究の目的

近年、インターネットや SNS の普及により、私たちは日々膨大な量の情報に接している。特に健康に関する情報は、専門的な医療機関からの発信だけでなく、個人の体験談や匿名の意見まで、多様な形式で流通している。このような情報環境の中では、信頼できる情報を見極め、適切に活用する力が個人に強く求められるようになってきている。こうした背景のもと注目されているのが、「ヘルスリテラシー」という概念である。ヘルスリテラシーとは「健康に関する情報を入手し、理解し、評価し、活用するための個人の知識、意欲、および能力」(WHO, 2013)を指す。中でも特に医療情報の活用に関して、市民のスキル不足が指摘されており、誤情報による不適切な健康行動や治療選択が社会的課題となっている。¹

薬剤師は、医薬品の専門家として国民の健康的な生活に寄与する責務を担う、医療提供体制における重要な存在である。医師や看護師と異なり、薬剤師は医療機関内にとどまらず、地域の薬局やドラッグストアなど、市民にとって最も身近な医療専門職の一つとして位置づけられている。そのため、薬剤師は日常的な健康相談の窓口となる機会も多く、市民との接点を通じてヘルスリテラシー向上に貢献しうる立場にあると考えられる。実際に先行研究では、薬剤師が成人や特定の集団を対象としてリテラシー教育を実施した結果、医薬品の適正使用が促進され、健康行動の改善に寄与したことが報告されている^{2,3}。

しかしながら、薬剤師が一般市民に対して実施するヘルスリテラシー教育の具体的な内容や方法論については、現時点で体系的に整理されておらず、明らかでない部分が多い。従来のヘルスリテラシー研究の多くは、市民側の知識や行動変容に注目しており、「情報の受け手」を対象としたアプローチが主流であった。一方で、ヘルスリテラシーの形成や向上は、受け手側の資質だけでなく、提供者側、すなわち情報をどのように伝えるか、どのような手段・媒体を用いるか、といった側面にも大きく依存する。特に薬剤師は、その専門性と市民との接点の多さから、情報発信者としての役割が今後ますます期待される存在である。

そこで本研究では、①薬剤師によるヘルスリテラシー教育の実態を、「人」(薬剤師の属性、教育活動への参加経路、教育資材の種類、実施時間、実施時期、対象者など)と「もの」(インターネット上で公開されている教育ツールや教材などの資材評価)の両面から明らかにする、②「人」と「もの」の両面からの調査を通じて、課題を明確にするとともに今後の効果的な教育プログラムの設計(わかりやすく実行に移しやすいヘルスリテラシー教育資材の作成・利活用や開催時期、時間、頻度、内容に関するカルキュラム)や薬剤師によるヘルスリテラシー教育体制構築(薬剤師のヘルスリテラシー教育活動におけるノウハウの共有、新規の情報発信の機会)に資する知見を得ることを目指す。

注) 枠の大きさは必要に応じて修正し、詳細に記載すること。

4-1. 研究活動報告 (これまでの研究成果と達成度)

アンケートの内容・設問などを ZOOM ミーティングにてディスカッションを重ね、倫理申請書類を作成。2 回にわたり、指摘に対する返答・アンケート設問項目などの見直しを実施した。結果 12 月 20 日付で、東京薬科大学倫理審査委員会にて承認。

注) 枠の大きさは必要に応じて修正し、各項目について詳細に記載すること。

4-2. 研究業績 (学会発表、論文等)

特になし

注) 本研究活動の成果に関する学会発表や論文情報を記載すること。枠の大きさは必要に応じて修正し、各項目について詳細に記載すること。

5. 次年度の活動計画及び到達目標

1. 学術小委員会としての研究活動期間

2026 年 7 月 1 日 ～ 2027 年 6 月 30 日まで 通算 3 年間の 2 年目

- ・ 会議の開催予定回数 12 回

2. 次年度の活動計画及び到達目標

(前年度の活動計画又は到達目標を変更する場合は、その理由を記載)

※倫理審査委員会の承認が想定スケジュールに対してやや遅延しているものの、2 年度目で調整予定

- ・ ツールを用いた資材の評価枠組みを準備・調整する。
- ・ 収集した教材・ツールについて PEMAT を用いて評価を行い、理解しやすさ、行動喚起性等の観点から質的・量的分析を実施する。
- ・ 1 年目のアンケート調査結果と資材評価を統合的に検討し、薬剤師による教育活動における課題や不足点を抽出する。
- ・ 抽出された課題について重要度・実現可能性をもとに優先順位を整理し、改善提案の方向性（対象、手法、教材、体制など）を明確化する。
- ・ 必要に応じて、インタビュー調査やワークショップ形式による関係者との意見交換を実施。

3. その他

注) 枠の大きさは必要に応じて修正し、各項目について詳細に記載すること。

6. 共同研究、他学会・団体からの支援（COI 申告を含む）

変更なし

注) 提出済みの研究計画書又は研究活動報告書の記載事項から変更がある場合にのみ記載すること。

7. 倫理指針、科学者の行動規範、個人情報保護法等への適合状況（倫理審査等の受審及び承認取得状況を含む）

2025 年 12 月 20 日付の東京薬科大学倫理審査委員会にて承認(承認番号: 人医 D-2025-038)

注) 前回提出済みの研究計画書又は研究活動報告書の記載事項から変更がある場合にのみ記載すること。

8. 研究費支出計画

次年度の研究費支出希望額 11 万 円

費 目	過年度	次年度	全期間
(1)データベースの利用料			
(2)アンケート調査費		5 万	10 万
(3)会場使用料、映像・音響等機材利用料、装飾・案内看板等作成費			5 万
(4)機器等のリース、レンタル費			
(5)印刷、製本費		5 万	5 万
(6)通信、運搬費用			
(7)講師謝金、旅費等(本学会旅費、謝金規程の範囲内に限る)			
(8)運営スタッフ雇用費			
(9)支払手数料			
(10)消耗品費			
(11)業務委託費			
(12)小委員会活動に直接関連する学会・研修会等への参加費およびそのための旅費			15 万
(13)倫理審査の受審料			
(14)論文投稿料、掲載料			15 万
(15)雑費		1 万	
合 計	0	11 万	50 万

注) 過年度の支出額(過去に支出した金額)、次年度(単年度)及び全期間の支出見込みを記載すること。

9. 次年度支出計画の内訳

オンラインアンケート調査を実施し、収集した情報に応じて、より詳細な分析やインタビュー調査を行う予定です。その際には、交通費などの諸経費が発生する見込みです。
また、効果検証の一環としてセミナーの開催を企画しており、会場費や資料印刷費などの費用が必要になると考えています。

注) 費目ごとに詳細な支出計画を記載すること。